



第70号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール info.koryuji@gmail.com
責任者 鴨井 智峯

新年のお慶び申し上げます。

高龍寺 院家

昨年は弘法大師生誕千二百五十年の節目の年で、真言宗各本山では慶祝法要が勤められ、総本山仁和寺でも一週間にわたり都合十四回の法要が勤められました。そして六月十五日の金堂での結願法要に出仕させていただいた後に、大勢の参拝者の中でお大師様に関する記念法話をさせて頂いたことは一生の思い出となりました。

お大師様の人生の中で特出すべきことは、遣唐使船で唐に渡り恵果和尚より真言密教の教えを余すことなく授け頂いたことであると思います。大学退学の後に消息が分からない期間が十年ほど続きますが、人生の目的を模索しつつ能力向上の期間であったと想像します。その後、歴史に登場されるのは、留学生として遣唐使船で入唐されたときです。これは母方の伯父・阿刀大足の口添えがあったと言われていますが、遣唐大使の通訳も務めたとのことで、お大師様の能力の高さを知ることができます。

長安にて恵果和尚に会ったこと、真言密教の教えを余すことなく授かり、恵果和尚遷化の後に、お大師様は二年で帰国の途につきました。留学生は二十年帰国してはならない掟のなか、二年での帰国は処罰の対象だと言われておりますが、御請来目録に見るように、持ち帰ったものの重要性から帰国が認められたのでしょ。

そもそも二年の間に遣唐使船が入唐することは非常に稀で、絶好の機会であったと思われますし、次の遣唐使船の入唐記録を見ましたら、お大師様が高野山に入定される四年後の承和六年でした。つまりお大師様はこの機会を逃すと日本に帰れなかったこととなります。

お大師様の生涯を思いますと、日本一の才能と努力と強運の持ち主であったとあらためて思うのでした。

合掌



(左) 6月15日、仁和寺金堂でお大師様に関する記念講話を行う住職。
(右) 瀬川大秀門跡を囲んでの記念撮影。

宗派について 高龍寺副住職 鴨井悠真

時々、檀家さんから「高龍寺さんは真言宗ですけど、そもそも宗派って何ですか？」と聞かれることがございます。

まず仏教というのは、「お釈迦さまの境地（悟り）を目指してみんなで幸せになりましょう」というものです。宗派ごとに細かい考え方が変わってきますが、ここだけは宗派に関係なく仏教全てに共通する目的です。

そして、日本では浄土真宗や曹洞宗、真言宗などをよく耳にするかと思われませんが、この宗派というのはザックリ言ってしまえば「お釈迦さまの言葉をどう解釈したか」の違いであると言われております。

まず浄土真宗の考え方は、悟りというのは人間がどう頑張っても到達できるものではない。そのため、「南無阿弥陀仏」と唱え、阿弥陀如来様に全てお願いしましょう。というものと聞いております。

曹洞宗では、何度も生まれ変わりながら修行し続けていれば、いつか必ず悟りに至ることができるというものだそうです。

そして真言宗は、悟りというものは特別なものではなく、あくまでも己の心の在り方次第。自分の考え方ひとつでいくらかでも幸せになれる、というものです。

お釈迦さまの境地（悟り）を山の山頂とすると、宗派というのはそこに至るまでのルートの違いだと思っていただければわかりやすいかと思います。あくまでも悟りに対するアプローチの仕方が違うというだけで、宗派によっての優劣などはございません。

これからお寺参りをされる際、お寺の宗派の違いなどについても目を向けていただければ幸いです。



家族が増えました

私事となりますが、第一子となる女の子が令和5年8月5日に誕生いたしました。名前は「鴨井友里^{かもしゆうり}」と申します。

これからも家族一同、頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

敬白 真言教主大日如来両部界会諸尊聖衆、殊には真言宗祖弘法大師別しては高龍寺本尊千手観世音菩薩、深信の御外護の尊儀各位、加えるに高龍寺累代の住職、檀信徒の精霊、総じては尽空法界一切三宝の境界に申して白さく。

夫れおもんみるに、亀老山高龍寺は推古天皇四年に聖徳太子の命により建立された古刹にて、中世には村上海賊の菩提寺として隆盛を極め、その縁により日本遺産に指定される寺院なり。

しかし長年の歴史には境内維持に困窮した時もある、檀信徒の菩提寺本尊への信仰心篤く、平成の大修理に続き、令和の境内整備の機運たかまり、参拝者用駐車場並びに石垣工事を発願するに至る。

今ここに工事着工に当たり安全祈願を務め無事完工を祈るところなり。願わくは、本尊千手観世音菩薩に有限会社森開発はじめ有限会社藤田商店並びに愛神興業などの従事者一同に災いなく工事完工を願うものなり。願わくは、本尊聖者、吾等が願いを本尊によって聞き納めたまわん事を。

乃至法界 平等利益

令和五年九月二十六日

亀老山 高龍寺 山主 敬白

境内整備祈願文

境内整備のご報告

高龍寺では令和8年に予定している、33年に一度の本尊御開帳に向けて境内整備を進めております。

長年の懸案だった駐車場不足を解消するため、山門横の隣地256坪を駐車場として整備し、石垣を築き、最後に石垣上部に塀を作る境内整備を行うことになりました。来春の島四国までの完成予定で工事を始めています。

工事期間中事故無く完工しますように祈願を勤めさせて頂きました。

その際にお祈りいたしました祈願文を掲載いたします。



2024年度亀老山高龍寺年中行事

御影供 毎月21日頃(5ヶ寺で持ち回り)

島四国 2024年4月20～22日

花まつり 2024年5月15日

施餓鬼 2024年8月18日

お焚き上げ 9月末頃

巳正月 2024年12月6日

除夜の鐘 2024年12月31日23時45分頃

※初仏の檀家さんのみ